（様式1）

学校番号	41	学校名	茨城県立神栖高等学校

令和8年度道徳教育全体計画

諸法規

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・茨城県教育委員会施策

校訓

至誠　勤勉　協和

学校の教育目標

1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。
2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。
3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。
4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。
5 生徒一人一人の人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。

生徒の実態

基本的に純朴である。基礎的な学力が不十分で、学習への粘り強さに欠けたり、日常生活でのマナーや言葉遣い、規範意識が希薄な生徒もいるが、大半は落ち着いて行動できる。
家庭環境や社会環境に影響されている。
指示や規則などの約束事を素直に聞きいれられる生徒が増えている。

保護者の願い

3年間安全と健康を保証され、学習に専念し卒業できる。地元企業への就職、または、就職に役立つ上級学校に進学する。

道徳教育重点目標

1 社会のルールやマナーを尊重し、責任感を持って行動できる生徒
2 自己実現に向けて、こつこつと忍耐強く取り組む生徒
3 自他の生命や人権を尊重できる態度をもつ生徒
4 社会の構成員としての自覚を持ち、社会貢献に努めようとする生徒

地域の実態

伝統的な地域の繋がりが薄れる一方で、行政による先進的なサポートと、学校・地域を再編する新しい連携づくりが加速している過渡期にあると言える。

各教科・科目

国語	適切に表現したり理解する能力を育成し、思考力を伸ばし心情を豊かにする。
地歴	我が国及び世界の形成や歴史・文化の特色について理解を深め、平和的な国家と社会の一員としての資質を養う。
数学	数学の概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力と態度を育てる。
理科	自然に対する関心や探究心を高め、日常生活の事象を科学的に考察し探究する態度を養う。
保体	健康増進や安全生活の理解を深め、生涯にわたり運動に親しみ豊かな生活を営む態度を育てる。
芸術	芸術活動を通して芸術を愛好し、感性を高め、豊かな情操を養い道徳性の基礎を培う。
外国語	外国語を通じて言語・文化に対する理解を深め、異なる文化と共生する態度を育てる。
家庭	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族や家庭を実践的に創造する態度を養う。
情報	情報の活用のための知識と技能の習得を通し、進展する情報化社会に対応する能力を育てる。
総合的な探究の時間	自らが主体的に考え、判断して行動する活動に重点を置き、生徒相互の理解と協調性を喚起し、発想を豊かにする。 豊かな体験活動を実施し自分の「道徳性」に気づかせ、実践できる資質と能力を養う。 自分自身の行動や行為を見つめて、共に歩む意味を考える。
商業	商業の各分野に関する知識と技術を習得させ、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

特別活動

ホームルーム活動

・学級の一員である自覚と学校生活の向上を目指す。
・人間としての在り方生き方の教育を実施して、地域に貢献する態度を養う。
・愛校心や学校への所属感を高め、より良い校風を創造する。
・2学年においては、合意形成を目指す討議型やモラルスキルトレーニング協働型の活動を通して、道徳的判断力や道徳的実践意欲と態度を身に付ける。

2学年では企業見学を柱とした「未来設計」の進路実現への第一段階になる職業観の育成と同時に自己探求や生き方と在り方を絡めた学習を行なう。
3学年は1学年の「道徳」と「未来設計の第一段階」から職業観を深めて自己実現に発展する。進路別研究授業なども実施して希望実現を目指す。

公民科

公共

「社会的な見方・考え方」を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、公民としての資質・能力を育成することを目指す。

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

生徒指導

授業としての道徳だけでなく、あらゆる教育活動を通じて「自他を大切にする心」を育てる必要がある。特にトラブルが起きた際を、自身の行動を振り返り他者への理解を深める「道徳的実践の場」と捉えた生徒支援を行う。
人間関係に不安を抱える生徒に対し、学校が安心できる居場所となるよう配慮し、集団の中での役割を通じて自己有用感を育むことで、落ち着いた学校生活を送れるようにする。

家庭との連携

生徒を取り巻く環境が多様になる中で、学校と家庭の連携ががこれまで以上に重要になってきている。
一人一人の豊かな心を育成し、教育効果を効率的に発揮するために、家庭訪問やこまめな家庭連絡を大切にする。

地域社会との連携

地域との関係は大きな教育の機会になっている。特に2学年次の「企業見学」は何年もの実績があり充実してきている。諸関係機関との連携を図り、相互の情報交換は今後とも強化し充実した体制を構築する。学校周辺地域・PTA・後援会や同窓会など協力を呼びかけ支援体制を作る。